

魔灯鏡影：

18世紀から20世紀にかけての中国のマジックランタンの放映と製作と伝播

孫 青（復旦大学）

【発表要旨】

マジックランタンは、17世紀の半ばにヨーロッパ人によって発明されて、イエズス会士の伝教活動や海外貿易によって中国に伝来された。19世紀に入ると、この「西器」はプロテスタントが「科学的に伝教する」重要な道具として中国に普及されて、それによるプレゼンテーションも近代の知識を伝播させる重要な手段となる。17世紀から19世紀までにおいては、知識のグローバル化のもとで、この「西器」は名称、製造、使用、流通などの各方面においては、中国在来のもとの互いに働きかける。それによって、イギリスの近代教育の技術と様式は、伝教ための講演や開港地での公共講座や学校での講義などの場において流行りだした。この過程の中で、中国知識人の集まり方や発表方法なども、以前の閉門結社（秘密結社）から公衆に向けて発信する「影灯講演」へと変化している。さらに、その流行も「士」が「知識人」へと変身することに多大な影響を及ぼしている。

【略歴】

孫 青/Sun Qing（復旦大学歴史学科準教授）

専門は、中国近現代史、文化史、教育史、史学史、中外文化交流、知識と近代社会、制度改革などである。主な著者は『晚清における「西政」の東漸と本土の回答』（世紀出版集団上海書店出版社、2009年10月）などがある。